

保健指導研究班班長報告

班長

川 名 尚*

要約： 本班は、HTLV-Iキャリア妊婦（以下キャリア）の保健指導に関するガイドラインを作成することを目的としている。

見出し語：HTLV-Iキャリア妊婦の保健指導、HTLV-I抗原検出

本班の検討項目：

- 1、妊婦のスクリーニングの問題
- 2、キャリア自身の問題・告知等を含めて
- 3、母子感染とその予防・・・断乳について
- 4、キャリアより生まれた児に関する追跡。
- 5、院内感染を含む水平感染への対策。
- 6、行政の関与のあり方。

(1) 妊婦のスクリーニングの方法

現在、行われているHTLV-I抗体検出法（以下抗体検出法）にはかなりの問題点があることが指摘された。

a) PA法で、128倍以下の低い抗体価の検体では、確認法とされているIF法、WB法では陰性の検体がかかり多い。また、抗原検出を行ってもこれらでは、陰性になることが多い。

従って、PA法は、あくまでもスクリーニングとしての位置づけであり、必ず確認法を用いるべきである。

b) 確認法とされているWB法についても問題があり、特に、p-19とかp-24のみにしか反応しない抗体は非特異反応であることが多いのではないかと考えられている。

*東京大学医学部附属病院 分院産婦人科

妊婦の場合は、キャリアであることを告知しなければならぬ。これは癌の告知のような一面を持つ重大なことであり、可及的に false positive をなくさなければならぬ。早急に HTLV-I 抗体検査法の確立が望まれる。

(2) キャリア妊婦自身の問題

キャリアであることを告知した場合の本人の精神的な負担、家族的、特に社会的な問題にどう対処するかが大きな問題である。

告知に際しては、告知する医師が正しい認識を持つこと、そのための医学的未解決な部分を早く解決してほしい。告知の仕方と時期については次年度以降の課題である。

(3) 母子感染の予防

母乳感染の頻度、断乳による効果、生後数カ月授乳させた時の感染率などのデータの集積が急務である。これらのデータを総合的に評価して、最終的な結論を出すことになる。

断乳によるデメリットについても検討しなくてはなるまい。

(4) キャリアより生まれた児の追跡調査

キャリア妊婦より既に生まれた児について HTLV-I 抗体を調べたものでは、陰性の例が多いとする報告もあり、母子感染の頻度について更に、検討を要する。

今後、生まれた児についても、生後六ヶ月、一年頃をチェックポイントとして検討している。

(5) 院内感染、対策

HTLV-I の感染経路は家族内伝播が主であることから院内感染については、特別な配慮は必要ないと考えられる。

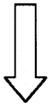
(6) 行政の関与のあり方

HTLV-I 母子感染予防は、家族的レベルと国家的、民族的レベルの両方の面からの検討がなされるべきであろう。

全妊婦にスクリーニングを行うべきか、公的な費用で行うべきか、今後の検討課題である。

文献

- 1) 佐藤洋一、川名尚：ATLA 抗体測定上の問題点 東京地方都会雑誌 37:269, 1988.
- 2) 川名尚、佐藤洋一、小泉佳男：風疹、HB、ATL、梅毒 産婦人科の実際 37:1688, 1988.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:本班は、HTLV-1 キャリア妊婦(以下キャリア)の保健指導に関するガイドラインを作成することを目的としている。